リトミック演習課題の作成と試用
―保育内容「表現」の授業改善に向けて―

小倉　隆一郎*

Devising and Tentatively Implementing Eurhythmics Exercise : Improving the Teaching of “Expression” in Nursery School

Ryuichiro OGURA

要旨　筆者は，領域「表現」を内容とする「保育内容 B」の授業を担当している．この授業は主として「ペープサート・パネルシアター等の教材研究および演習」と「リトミックの演習」の 2 点で構成する．2018 年度はリトミック演習課題を作成し，授業に使用した．授業の最後に，受講した学生を対象にリトミック演習課題について，質問紙による調査を行った．本論では，学生からの回答と授業を録画したビデオを基に演習課題を評価し検討した．その結果，課題が分かりやすくリトミックの演習を楽しめた，との意見がある一方，動きの説明が分かり難い，歌の音程があいまい，教室の環境・備品に適さない課題がある等の問題点が明らかになり，次回の演習課題改訂への有用な資料となった．

キーワード：保育内容「表現」　リトミック　幼児教育　授業改善　振り返り

１．研究課題

文教大学心理教育課程では，保育内容の指導法について，領域「表現」と「言葉」にかかわる授業を「保育内容 B」として開設している．筆者は領域「表現」を担当しており，2016 年度より「保育内容 B」の授業改善に取り組んでいる．2018 年度は，リトミックに関して，従来の授業プリントを改訂・まとめて演習課題集を作成した．学生は，この演習課題集を用い，3 コマを使って学習し，演習を行った．

本論では，2018 年度授業用に新しく作成したリトミック演習課題について，主として学生が記したリアクションペーパーの内容と演習を録画したビデオを基に振り返る．それらの振り返り結果を，次年度の同授業改善に役立てることを目的として検証することが主たる研究課題である．

２．「保育内容」におけるリトミックの授業形態

本学の教育学部心理教育課程における「保育内容」の授業の詳細については，過去の紀要（小倉 2016,2017）に記載した．以下，領域「表現」の主たる演習内容にリトミックを取り上げた経緯と理由について述べる．

筆者は, 2017 年度から「保育内容 B」の授業の内, 領域「表現」を担当している．「保育内容 B」は領域「表現」と領域「言葉」を含む免許・資格にかかわる必修科目である．全 15 コマは，第 1 回授業のオリエンテーションに続き,「表現」7 コマ,「言葉」7 コマが割り振られている．

* おぐら りゅういちろう 文教大学教育学部心理教育課程

領域「表現」の演習内容は，「ペープサート・パネルシアター等の教材研究および演習」と「リトミックの演習」の2点で構成する．筆者が「保育内容B」の授業に「ペープサート・パネルシアター等」と「リトミック」を取り入れる根拠は，「幼稚園教育要領」（文科省 2017）および「保育所保育指針」（厚労省 2017）の第2章ねらい及び内容の「表現」の文言である．改訂された「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」は，本年（2018）より施行されている．「表現」の2．内容の内，とりわけ授業に関連がある文言は以下（4）～（8）である．

（4）感じたこと，考えたことなどを音や動きなどで表現したり，自由にかいたり，つくったりなどする．

（5）いろいろな素材に親しみ，工夫して遊ぶ．

（6）音楽に親しみ，歌を歌ったり，簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう．

（7）かいたり，つくったりすることを楽しみ，遊びに使ったり，飾ったりなどする．

（8）自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう．

上の（4）～（8）の文言と演習内容「ペープサート・パネルシアター等」「リトミック」との関連を表1に示す．

表1　演習の内容と「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」表現との関連

演習の内容	関連する文言項目
ペープサート・パネルシアター等	（4），（5），（7）
リトミック	（6），（8），（4）の前半

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の表現内容における文言を，「保育内容B」授業で具現するための主な演習内容として，「ペープサート・パネルシアター等」と「リトミック」を取り上げることは適切と考えられる．

菅沼は「幼稚園教育要領」における「表現」の2内容とリトミックの目的・手段・育まれる能力と照らし合わせ，その共通性を検証した．その結果，多くの共通性を見出すことができ，「このことからリトミック教育が子どもの豊かな表現の育成に寄与するといえるのではないかと考える」と述べている（菅沼 2009）．

3．リトミックの演習と課題

筆者が担当する「保育内容B」の表現領域では前述の通り7コマが割り当てられている．その内，リトミックの演習は3コマを使う．

1コマ目は，前半，リトミックの定義，領域「表現」とリトミックの関連について，前章の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の文言を含めて解説した後，一例として『足じゃんけん』を使ったリトミックのセッションを全員で行う．詳細は昨年の紀要（小倉 2017）で述べた．1コマ目後半は，クラスの学生を9グループに分け，次のコマからの演習に使用するリトミック課題を配布し，各グループで検討させる．2018年度のクラスでは幼児心理教育コース55名，児童心理教育コース55名，それぞれのコースの学生を，6～7名ずつの9グループに分けた．（以降，9つのグループに分けた集団を1班～9班と称する）

学生に提示するリトミック課題は，筆者が「保育内容B」の授業を初めて担当した2014年度に作成し（以降2014年版とする），2017年度までの4年間は細部の不具合部分を見直しながら使用した．演習ごとに学生に配布する授業プリントである．これらの課題には，1つの班に3～4つのリトミックの実践方法を掲載し，1班～9班はすべて異なる内容である．課題の作成にあたっては，参考文献に記した板野（2001），神原（2006），石丸（2011）の3点の著書を参考にした．2014年版リトミック課題は，昨年まで4年間使用した結果，以下の問題点が認められた．

（1）3～4つの実践方法を掲載したため，学生が課題を選択する際，迷う

（2）説明のフォーマットが不統一で分かり難い

(3) セッションを行うクラス・教室の実状に合わない課題がある

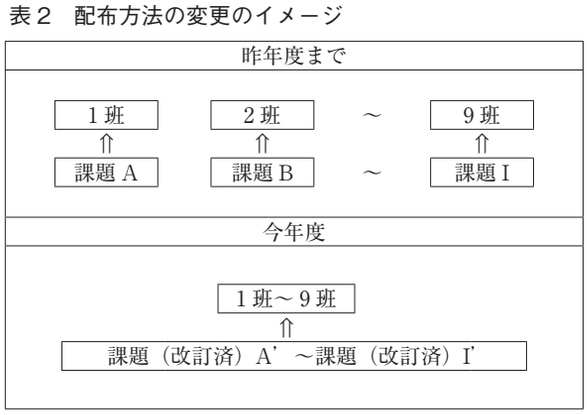
(1) では, 1 回のセッションで実施できるリトミック実践は時間的に 2 つが限界である．授業では 3 ～ 4 つの実践方法から 2 つを選択するように指示したが, 迷う学生が見うけられる．(2) について, 複数のリトミック専門書を参考にしたため，文章のフォーマットが不統一な部分が生じたと考えられる．(3) の一例をあげれば，全員が円になってリズムを受け渡していくビート送りの活動は, 50 名を超えるクラスにおいては適切ではない．学生に対応方法を考えさせるか，スムーズに実施できるように工夫して課題に示す必要がある．

4. リトミック課題の作成

4-1. リトミック課題の配布方法

学生に配布するリトミック課題を今年度 (2018 年) 改訂し，まとめて作成した．内容を改訂するとともに，配布方法も変更した．配布方法については，昨年度まで，各班に配布する課題は該当班のみに渡していたが，今年度からはすべての課題をまとめて全員に配布した．配布方法の変更のイメージを表 2 に示す．

表 2　配布方法の変更のイメージ



今年度, 学生全員に配布するリトミック課題は A’～ I’ すべてを含めたため，プリントするページ数は倍増した．しかし，他のグループの課題を書面で見て確認したいという学生の要望に沿うことができ，リトミックのセッション内容を課題冊子で振り返られることは有用であると考える．

4-2. リトミック課題の内容

リトミック課題の改訂内容について述べる．まず, 前章, 2014 年版リトミック課題の問題点の内, (1) 3 ～ 4 つの実践方法を掲載したため，学生が迷う件については，課題を 2 つに絞ることで対応する．学生が課題を選択する過程で，1 つでも多くのリトミック実践の内容を検討することは大切であるが, 準備時間が少ないため, 実際のセッションで使用する実践内容を集中して検討できるように課題を絞ることとした．各班に提示したリトミック課題の班別テーマは，表 3 の通りである．

表 3　リトミック課題の班別テーマ

班	課題 1	課題 2
1	わらべうたの活用	ビートとタイミングを合わせる
2	ボディー・パーカッション入門	歌とボディー・パーカッション
3	ごんべさんのあかちゃん	こいぬのビンゴ
4	「サンタクロース」響を聴く	ロンドン橋
5	音の高さの身体表現	鍵盤ボードで演奏する
6	タンブリンをたたこう	カードでビートをつくる
7	わらべうたと身体表現	「ボディーサイン」で音程表現
8	アビニョンのはしのうえで	「ミッキーマウスマーチ」で心唱体験
9	音の響きを感じよう	「サウンドシェイプ」を活用する

(2) 説明のフォーマットが不統一で分かり難い問題点については，リトミックの説明文を根本的に見直し，書き換えることで改善を図った．改善のポイントは次の 2 点である．

1) 説明文全体のフォーマット

2014 年版リトミック課題では，活動内容のみを記載したり，初めに目標やねらいを記したり，様々であったが, 改訂版では全ページを「テーマ」→「ねらい」→「活動内容」の順に記載した．

2) 文体の統一

引用元の大半の「です」「ます」調を「である」調に統一した．

4-3. リトミック課題改訂ポイントの実例

4-2の1）および2）について訂正・追加した1つの事例として，「わらべうたの活用」の2014年版実例1と2018年版実例2を以下に記す．

（1）実例1　2014年版リトミック課題

即時反応：「おちたおちた」

ねらい：ビートにのろう．そしてゲームを楽しもう．

活動1　みんなで円になりましょう．リーダーは園の中心に立ちます．全員で「膝―頭」の動きを繰り返します．そのビートにのって唱えましょう．

（譜例省略）

5小節目で，リーダーは何か1つの言葉を言います．7小節目では，リーダーの言葉に従ってポーズをします．

（イラスト省略）

アドバイス　始める前に，ここで用いる言葉とポーズを確認しましょう．

（2）実例2　2018年版リトミック課題

わらべうたの活用

ねらい：ビートにのって，即時反応を養う

活動内容

①子どもたちは円になる．先生は中央に立つ．人数が多い場合は，二重円になってもよい．

②先生が四分音符で手拍子を打ちながら，「おちたおちた」を範唱する．（左手和音ミソラ）

③次に，1～2小節を［範唱→全員で歌う］，同様に3～4小節，5～6小節を練習する．

④1～6小節を通して，全員で歌う．

⑤［膝－頭］を打ちながら歌う．（ボディーパーカッション）

⑥「これからゲームをします！」

タンプリンをたたきながら

先生「お－ちたおちた」⇒全員「なにがおちた」

先生「リンゴがおちた」⇒全員「ポーズ」（落ちるリンゴを手で受け止めるポーズ）

↳「カミナリ」「げんこつ」「雨」「お金」…etc

（譜例・イラスト省略）

（3）2018年版リトミック課題の改良点

テーマ，ねらい，活動内容の観点から，改良点を述べる．

1）テーマは，2014年版では『即時反応：「おちたおちた」』のように，ねらい＋曲名と表示したが，2018年版は曲名とし，該当するリトミックのねらいは次項目に記す．

2）ねらいは「ビートにのって，即時反応を養う」のように，リトミックの目的･効果を簡潔に示す．

3）活動内容について，2018年版では「～しましょう」のような語り掛ける文体を避け，箇条書きで分かりやすく順を追って記した．また，授業における活動がスムーズに進めるよう，受講者数を配慮したアドバイス，この場合では「人数が多い場合は，二重円になってもよい」を追加した．さらに，実際に子どもたちを対象にリトミック活動を行うことを想定して，②で範唱し，③で部分的に模唱すること，④で歌の練習をした後，⑤ボディーパーカッションを入れる．そして，⑥でわらべうた「おちたおちた」のゲームにすすむなど，初めて「おちたおちた」を行う子どもたちに，歌と身体活動が無理なく身につくよう，順を追ってていねいに記述した．

4-4. 2018年版リトミック課題

2018年に作成したリトミック課題（表3）について，次章で学生のコメントを資料として分析・評価する．ただし，本論では誌面ページ数の関係で「わらべうたの活用」「ビートとタイミングを合わせる」「ボディーパーカッション」「歌とボディー・パーカッション」の4つの課題を取り上げる．上の4つの課題を下に記す．ただし，図と歌詞は省略する．

（1）わらべうたの活用

4-3の（2）に記載した．

（2）ビートとタイミングを合わせる

ねらい：4拍子と混合拍子，足踏みによる即時反応を養う

活動内容

床にフラフープを置く．大小とり混ぜて，周り

を自由に歩ける程度がよい.

Ⅰ「さよならのうた」

① 「さよならのうた」歌の練習　歌詞とメロディーを覚えてもらう

② 子どもたちを半分に分けて，A,B グループとする．A グループは歌う, B クループは, 4 拍子の拍を数字（1, 2, 3, 4）で言う．A,B 交替する.

③ 全員歌いながらフラフープの外を歩く．拍の「1」の時，フラフープの中に片足をつける．2 回目に歌う時は「2」, 3 回目→「3」, 4 回目→「4」とする.

④ 1 小節目は「1」，2 小節目は「2」，3 小節目は「3」, 4 小節目は「4」の時に, フラフープの中に片足をつける.
①, 2, 3, 4 ｜ 1, ②, 3, 4 ｜ 1, 2, ③, 4 ｜ 1, 2, 3, ④を繰り返す.

Ⅱ「あんたがたどこさ」

① 「あんたがたどこさ」歌の練習　歌詞とメロディーを覚えてもらう

② 全員歌いながらフラフープの外を歩く．歌詞の「さ」の時，フラフープの中に片足をつける.

③ 歌うスピードを速くする.

(3) ボディーパーカッション

ねらい：手と足を使うボディー・パーカッションを楽しむ

活動内容

Ⅰ 模倣する

① 円になる

② 先生が 1 小節，手（クラップ）と足（スタンプ）を使ってリズムを叩く

③ 子どもたちは，続けて先生と同じリズムを叩く（模倣する）

Ⅱ リズムで会話（即興）

2 人組をつくる

① 2 小節，ボディー・パーカッションで話しかける
「あなたは だ〜れ?」⇒「わたしは○○○」等

② 次の人が，2 小節，ボディー･パーカッションで答える

③ 円になって，次の人次の人へと答えのリズムをつなぐ

Ⅲ リズムの瞬間交代

① Ａリズムパターンと Ｂリズムパターン，それぞれを練習する

② ［ＡＡＢＢ］［ＡＢＡＢ］［ＢＡＢＡ］などのリズムパターンを練習する

③ ＡとＢの大きなカード（画用紙大）を用意 Ａから始め，適当なタイミングでＢカードを出す　次の小節からＢのボディー・パーカッションを叩く　適宜，ＡとＢのカードを出す

④ 「くつがなる」をピアノで弾き，このリズムに合わせて③をプレイする.

(4) 歌とボディー・パーカッション

ねらい：歌いながら身体運動とボディー・パーカッションを楽しむ

活動内容

① 「手のひらを太陽に」歌う練習をする（白板に歌詞を大きく書く）
ピアノ伴奏をする人は練習しておく

② 「手のひらを太陽に」にボディー･パーカッションと動きをつける
楽譜の 1 段ずつ，先生が説明しながら手本を示し，子どもが真似る
5 段目のポーズ部分は，♩♩♪ のリズムで身体を自由に叩く，または先生が（♩は膝, ♪は肩など）指示してもよい.
7 段目のポーズ部分は，自由にポーズを考えさせる
上の練習を通しで最後まで行う

③ 2 重の円になり，先生は中央　②の歌と動きをプレイする

5．リトミック課題の試用と質問紙調査の　検討結果

「保育内容 B」の授業の最後に，改訂した 2018

年版リトミック課題について，質問紙による調査を行った.

質問紙調査の時期：幼児心理教育コース5月25日～6月22日，児童心理教育コース7月27日～8月3日

回答数：幼児心理教育コース54名，児童心理教育コース55名

学生に次の質問項目を含むリアクションペーパーを配布し，記述による回答を得た.

1．課題について（分かりやすかったか？　分かり難い場合どこが？）

2．リトミック演習を終えて

2-1. 準備段階で工夫した点

2-2. 実施したセッションの中で，子ども（学生）に楽しさが伝えられた点

2-3. リトミックの楽しさが充分には伝わらなかった（反省）点

2-4. 上の楽しさが充分には伝わらなかった点を改善するには，どのようにしたら良いですか？

2-5. リトミックのセッションについて，その他，意見があれば書いてください

リトミック演習の様子は，教室の後ろから遠景でビデオに録画した.

ビデオ撮影日時：2018年5月18日・25日，7月20日・27日

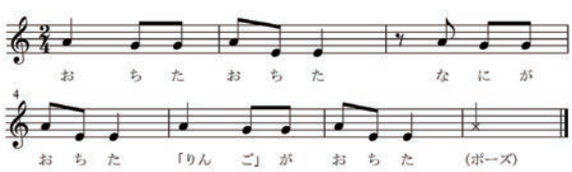
「わらべうたの活用」「ビートとタイミングを合わせる」「ボディーパーカッション」「歌とボディー・パーカッション」の4つの課題について，学生の回答を検討し，授業を録画したビデオを参照する．以下,『　』は学生の記述した文章を示す.

5-1.「わらべうたの活用」

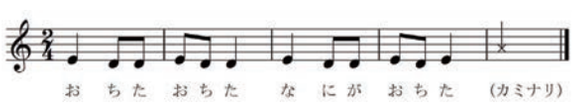
課題について,「おちたおちた」のわらべうた遊びは『学生になじみのあるゲームで，分かりやすかった』とのこと.

準備段階で工夫した点は,『～何が落ちたことにするか考えた』ことであり,『子ども達に受けが良いもの，瞬時に考えられるものにした』と言う．ビデオで確認したところ,「リンゴ」は指導者が落ちてくるリンゴを受け止める動作を示し，その後は学生（子どもたち）に考えさせていた.また，提示する落下物は「カミナリ」「げんこつ」「雨」「お金」の順に，子どもにとって分かりやすいものから表現が難しいものへと並べていた．子どもの発達に考慮して，何が落ちたかをあらかじめ検討しておいたものと推察する．子ども(学生)に楽しさが伝えられた点としては,『～何が落ちてくるかドキドキさせる“間”をつくることを意識して，即時反応の面白さを共に楽しむことができた』と記述している．学生が，リトミックのねらいの1つである即時反応を参加者全員で楽しめるように工夫し，実践した様子がうかがえる.

また「なにがおちた」のポーズの部分で,『落ちた時の対応を一人一人考えながら行っていて，楽しみが伝えられたと思う』とのこと.子ども(学生)自身が考える活動が含まれ，リトミックの目的の1つである「創造力を高める」ことにつながると考えられる．このセッションの反省点として,『歌うだけの練習をしなかったのと，伴奏がなかったため，歌の存在が薄くなってしまったと思う』としている．学生の演習を録画したビデオで確認したところ,歌の音程が以下のように曖昧であった.譜例1が課題に提示した「おちたおちた」の楽譜（神原 2006)，譜例2はビデオの音声から筆者が採譜したメロディーである.



譜例1「おちたおちた」の課題に提示した楽譜



譜例2 筆者が採譜した「おちたおちた」の楽譜

わらべうたの「おちたおちた」は，学生にとってゲームとしては親しみのある曲であるが，正確な音程で歌えることは大切にしたい.

5-2.「ビートとタイミングを合わせる」

Ⅰ「さよならのうた」は，②のＡとＢのグループ分けが『ごちゃごちゃになってしまい』『割合が分からず難しかった』との意見があった．歌うグループとリトミックを行うグループは，この課題の場合，各班の番号（1 ～ 5,6 ～ 9 等）で指示する方法を課題説明に追加したい．グループ分けに関して，『4 つのグループに分け，反応するポイントも 1 グループに 1 つとした．さらに反応するポイントで音を鳴らすようにした』との工夫がみられた．このセッションを録画ビデオで確認したところ，鈴・拍子木・太鼓・カスタネットで 1 拍から 4 拍のフラフープに足を入れるタイミングを図 1 のように，異なる音で分かりやすく示していた．

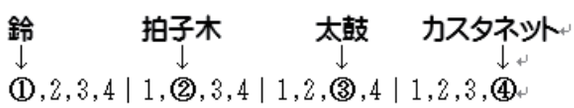


図 1 拍を指示する打楽器

「さよならのうた」を使ったリトミック課題は，この歌を子どもたちが歌えることを前提としている．従って「さよならのうた」を唄い慣れていない学生には，かえって難しく感じたようで，『正直難しすぎて，実際に保育場面でもこの活動を本当に行っているかが気になった』と言う．当課題については，授業に参加する学生の現状を踏まえ，選曲を見直す等，次期改訂にむけて再考したい．また，フラフープの数について『今回よりも少ない人数で多めのフラフープで行うと良い』と記述していた．フラフープの数が不足していたことに対して，『（学生を）大きな円にしたり，フラフープを大きいテープでつくったりした点』を工夫したとの意見があった．学生 55 名に対し，大フラフープが 5 個，小フラフープが 5 個，計 10 個では不足であろう．

工夫した点は，『～歌詞を模造紙に大きく書き，“あんたがたどこさ”はフラフープに足を入れるのが分かりやすいように，ひらがなの“さ”を別の色で書く』ことにより，一目でそのリトミックの内容を理解できる．

5-3.「ボディーパーカッション」

課題Ⅰのリズムの模倣については『先生がリズムを叩いたあとに子どもたちが同じリズムを叩くものだったので分かりやすかった』との記述があった．課題Ⅱに関しては『会話とボディーパーカッションの結びつけが難しい』，また課題Ⅲでは『ＡとＢを瞬時に交代させることが難しく，みんなを戸惑わせてしまった』と言う．課題Ⅱと課題Ⅲの解決策の 1 つとして『幼児を相手とするならば，もっと簡単なリズムにしたり，ゆっくりなテンポの曲を選ぶ必要があると思う』との意見があった．

準備段階で工夫した点について，課題Ⅰは，子どもたちが先生と同じリズムを叩くセッションであるが，『見本を見せるだけでなく，手の動きと足の動きのそれぞれに声も合わせる』アイデア，具体的には「ターティティターター」等，リズムを声で表現することを振りと同時に実行した．また，課題ⅢはⒶとⒷのカードを用意してリズムを指示するが，『Ⓐ Ⓑのカードを作るだけでなく，それぞれのリズムを書いた画用紙を作成した』とのこと．ここで学生が製作した「リズムを書いた画用紙」は，録画ビデオで確認したところ，以下の図 2 に示すように，四分音符と八分音符を五線は使わずに上下に書いて掲示していた．

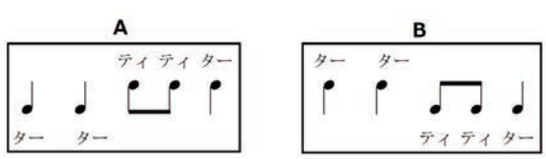


図 2 学生が製作したリズム譜

演習では AB のリズムの区別が分かりやすく好評であったが，『子どもに音符や 4 分音符などの音楽用語が伝わるか不安だった』との指摘があった．子どもたち向けの掲示では，図形的にリズムを表す工夫が必要であろう．リトミック課題の次期改訂の際は，図 3 の小学校音楽科の 1 年教科書

（小原他 2011 ）におけるリズム譜を参考に，幼児に分かりやすい図示の仕方を考案したい．また，リズムを口頭で歌う際，課題では♩を「ター」，♪を「ティ」と表示した．次期の課題改訂では，小学校音楽科での表示に倣い，♩を「たん」，♪を「た」と直したい．

図３「ぶんぶんぶん」のリズム譜

図３のリズム譜の書き方に従って，図２のＡのリズムを表記すると図４のようになる．

図４ リズム譜Ａの表示例

子ども（学生）に楽しさが伝えられたかについて『子どもの場合，音を発すること自体に楽しみを感じているが，みんなで合わせる，決められたリズムを叩くという楽しさも伝えられたのではないだろうか』と記している．一方，『リズムを覚えたり動きを理解するということが主となり，自分自身で音を表現する楽しさを体感するには至らなかったと思う』との反省点が指摘された．子どもたちにリズムを創造する楽しさを伝えるには，課題Ⅱの即興の要素をより分かりやすく工夫する必要があろう．

5-4.「歌とボディー・パーカッション」

課題について，『誰もが知っている「手の平を太陽に」で身体運動・ボディーパーカッションを楽しめた』また，身体運動については，『振りも簡単で分かりやすかったので，取り組みやすかった』とのこと．また，この課題の優れた点として，『歌いながら体全体を動かし，自由にポーズをする部分があり，個性を引き出すことができた』とするが，一方『早くポーズが切り替わる時に，戸惑ってしまう部分があった』とのこと．

準備段階で工夫した点は，『～ポーズを予め決めることで，リズムを楽しめるようにした（自由にしていいよと言うと，止まってしまう人がいるため）』後半のクラスでは『決めポーズの時に３グループに分かれ，決めポーズを変えることで，全員がいるからこそ完成する楽しさを伝えられた』との意見があった．ビデオで確認したところ，決めポーズの１グループは①左手で天を指差し，２グループは②右手で指差し，３グループは③両手と片足を上げるポーズを指示し，１小節４拍の間に①②③と素早くポーズを交代していた．動作が軽やかでリズミカルな身体表現を行うことで，全員の動作とリズムが揃い，達成感が得られたようだ．また，板書では『歌詞だけでなく，１枚の紙に振りつけも書いてまとめました』と述べ，１グループ10分という少ない時間の中で，できる限り一目で分かりやすい説明を工夫していた．

子ども（学生）に楽しさが伝えられた点に関し，『誰かと一緒に歌ったりボディーパーカッションをする楽しさを伝えられた』との意見があった．また，『音楽に合わせて動いたり，手をたたいたりなど，音楽にもダンスにも興味がわき，そしてみんなで同じ動きをすることを楽しめたかなと思う』など，大人数で迫力ある身体運動の楽しさや達成感が得られたものと考える．

反省点として『お手本を見せても，まだ覚えきれずに戸惑っている子がいた』また，『恥ずかしがって，思いきり身体を動かさず，リトミックをたのしみきれていない子がいた』との記述があった．

上の反省点の改善に向けて，『保育者が最初に恥を捨て，大きく動いたり，楽しそうに動くようにする』といった意見があった．子どもたちとリトミックの楽しさを伝えるには，正に指導者が楽しむことが不可欠である．次回の授業では，説明の際，リトミックのセッションを共に楽しむ姿勢を大いに協調したい．

６．おわりに

表現に関する領域を扱う「保育内容Ｂ」の演習課題集を作成し，授業で使用した．この課題について，授業終了後，学生に記入してもらったリアクションペーパーを基に評価した．

今回，検討した４つのテーマのうち３つについては，課題が分かりやすくリトミックの演習を楽しめた，との意見があった．課題が分かりやすいか，との質問に否定的な回答があった「ビートとタイミングを合わせる」では，練習の段階で，歌うグループとリトミックを行うグループの指示が曖昧であったため，改善したい．

課題の内容以外に，学生が独自に工夫・考案した点が，今回検討した４つの課題すべてについてみられた．「わらべうたの活用」では「おちたおちた」の最後で何が落ちたかを，子どもの発達を考慮して考案した．「ビートとタイミングを合わせる」と「歌とボディー・パーカッション」では，学生が板書や掲示に工夫を凝らし，色の文字で強調表示することや歌詞の上に振り付けも記入することを実行していた．「ボディーパーカッション」では，リズムを「ターティティターター」等と声で表現することを振りと同時に行い，模範を示した．

子ども（学生）に楽しさが伝えられた点として，「わらべうたの活用」では，学生が『即時反応の面白さを共に楽しむことができた』と言っている．また，「ボディーパーカッション」では『音楽にもダンスにも興味がわき，そしてみんなで同じ動きをすることを楽しめた』との意見があり，全員でリトミックを行うことにより，大人数で迫力ある身体運動の楽しさや達成感が得られたものと考える．

リトミックの楽しさが上手く伝わらなかった点として,「わらべうたの活用」では「おちたおちた」の『歌の存在が薄くなってしまった』との感想があった．この理由としては，譜例１と譜例２を比較して，授業で歌われた「おちたおちた」のメロディーと音程が，オリジナルと相違したことにあると推察する．また，「ボディーパーカッション」では，掲示したリズム譜に音符が書いてあり，子どもたちにリズムが上手く伝わらないのでは，との指摘があった．ＡとＢのカードに加えて，それらのリズム譜を掲げるという学生のアイデアは優れているので，図４のような図形的なリズム譜を使って課題の改善に活かしたい．

本論では，「保育内容Ｂ」の授業用に作成したリトミック課題の内，４つの課題について，学生のコメントと演習を録画したビデオを基に評価するとともに，次回の改訂に向けて内容を検討した．今後は，残る課題を検討することと並行して，指導者と子どもたちがより楽しめるリトミック課題を作成し，授業改善へ研究をすすめたい．

引用文献

小倉 隆一郎．2016.「保育内容「表現」および「言語」におけるオペレッタの実践－子どもに分かりやすい表現をめざして－」．文教大学教育学部紀要 50 号．p.21-30

小倉 隆一郎．2017.「保育内容「表現」におけるリトミックの実践－授業改善に向けての振り返り－」．文教大学教育学部紀要 51 号．p.297-305

文部科学省．2017．幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉．フレーベル館．p.29 ～ 30

厚生労働省．2017．保育所保育指針〈平成 29 年告示〉．フレーベル館．p.20 ～ 21

小原光一他 12 名．2011．小学校の音楽１指導書（実践編）．教育芸術社．p.26

菅沼邦子．2009．保育者養成における保育内容「表現」の授業に関する一研究 -- リトミック導入の可能性の検討．広島女学院大学論集 59, p.47 ～ 58

参考文献

学生に提示したリトミック課題を作成した参考書

板野　平. 2001.『ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー』．チャイルド本社

神原雅之. 2006.『リズム＆ゲームにどっぷりリトミック 77 選』．明治図書

石丸由理．2011．『リトミック百科』．ひかりのくに